■島崎藤村 詩人・小説家。父の挫折や女性との葛藤を背景に、「破戒」「夜明け前」など、日本近代文学の推移を体現した。
しまぎさとうそん
学問のすすめ1872＝ 長野県で旧中山道馬籠宿で、本陣、庄屋、問屋を兼ね、国学者でもあった島崎正樹の四男に生まれる。
明治6年政変 1873＝ 1歳： 生家は明治維新の改革にともなって没落しつつあり、
父は山林解放に身を捧げていたが、うまく行かないでいた。

明治14年政変1881＝ 9歳： 修学のため上京後、知人の家庭で成長した。泰明小学校卒業。

帝国大学始・1886＝14歳： 開成中学校に入学。精神異常をきたした父が座敷牢で死去。
国民之友始・1887＝15歳： 明治学院本科に転学。
初の対等条約1888＝16歳： 高輪の教会で洗礼を受ける。キリスト教や西洋文学の影響で文学に志し、
帝国憲法発布1889＝17歳：
帝国議会始・1890＝18歳：
足尾鉍毒始・1891＝19歳： 明治学院を卒業後、婦人啓蒙誌{女学雑誌}に寄稿を始め、
大本教・・・1892＝20歳： 明治女学校に就職するが、教え子を愛したため、
郡司千島探検1893＝21歳： 辞職。生涯の先達として仰いだ北村透谷や、星野天知らと雑誌{文学界}を創刊。
日清戦争始・1894＝22歳： 明治女学校に復職。透谷が自殺し、衝撃を受ける。
日清戦争終・1895＝23歳： 辞職。最初は透谷にならって劇詩を書いたが、やがて抒情詩に進み、
白馬会・・・1896＝24歳： 仙台の東北学院教師に赴任。母が死去。{文学界}に詩を発表し、
八幡製鉄始・1897＝25歳： 東北学院を辞し、上京。*まとめて「若菜集」を刊行、新体詩人として名声を博した。
子規句歌革新1898＝26歳： 詩集「一葉舟」「夏草」を刊行。
Bushidou・・・1899＝27歳： 信州の小諸義塾に赴任し、結婚。
ピアノ国産化・1900＝28歳： 「千曲川のスケッチ」の稿を起す。
田中正造直訴1901＝29歳： 詩集「落梅集」を刊行。
抒情詩の形式と自分の思想とに違和感を感じはじめ、自然や人生の観察を深めて、小説に転じ、
この間、次々と子供ができるが、生後すぐに亡くなる者が多い。
日露戦争始・1904＝32歳： 合本「藤村詩集」刊行。
日露戦争終・1905＝33歳： 小諸義塾を辞して上京。
満鉄発足・・・1906＝34歳： *7年の苦闘の後完成した「破戒」を自費出版して、作家の地位を確立。
韓国反日暴動1907＝35歳： 第一短編集「緑葉集」刊行。発表した小説をめぐってモデル問題が起る。
アヲヲ創刊・1908＝36歳： {文学界}時代の青春を描いた次作の「春」において自伝的小説へと向かい、田山花袋の「蒲団」とともに日本の自然主義文学の方向を決定した。
韓国併合・・・1910＝38歳： 第3の長編「家」はその代表的作品である。
大逆事件判決1911＝39歳： 「千曲川のスケッチ」の連載。「家」執筆中に妻を失って、家事手伝いの姪と過失を犯し、予想される非難を避けて、
明治天皇没・1912＝40歳：
大正政変・・・1913＝41歳： 渡仏。
この間も次々と作品を発表。
民本主義・・・1916＝44歳： 帰国すると、
ロシア革命・1917＝45歳： 姪との関係が復活。
本格政党内閣1918＝46歳： この間の経緯は「新生」に描かれ、露になったことから兄や姪と別れる。
樺太条約・1919＝47歳： 社会的に葬られることも覚悟した誠実な告白によって評価され、生涯最大の危機を切り抜け、「新生」後、彼は4人の子を育てるかわたら、
原敬首相暗殺1921＝49歳：
水平社結成・1922＝50歳： 女性雑誌{処女地}を発行し、「明日」への芽を伸ばそうとした。この間、加藤静子との関係が始まり、また、3年間文部省国語調査委員をつとめる。
治安維持法・1925＝53歳： 静子と「藤村読本」の編集に着手。
日本時代始・1926＝54歳： この間、「夜明け前」の準備を進める。
共産党事件・1928＝56歳： 静子と再婚。
世界恐慌・・・1929＝57歳： 父の生涯を軸に、幕末維新期における日本の「生命」の苦しみを描いた大作「夜明け前」の執筆開始。
満州事変・・・1931＝59歳：
芥川直木賞始1935＝63歳： *最後の長編「夜明け前」を完成。この作品を通じて東西の交渉に関する認識を深め、日本ペンクラブ初代会長に就任し、
二二六事件・1936＝64歳： アルゼンチンの国際大会に出席。
日中戦争始・1937＝65歳： 帝国芸術院会員に推挙されたが、辞退。
大政翼賛会・1940＝68歳： 「藤村童話叢書」刊行開始。再び、帝国芸術院会員に推挙され受諾。
日米開戦・・・1941＝69歳：
創価学会検挙1943＝71歳： 国際経験を生かし、*「東方の門」において日本の「夜明け」を描こうとしたが、雑誌連載開始後まもなく、脳溢血のため没した。